

平成21年10月1日号



長正司公園(ちょうしょうじこうえん)の大藤棚

樹齢百年を越える大藤棚は、豊田盆地を眼下に望む長正司公園にあり、藤の花が満開の5月上旬には毎年、藤祭りが盛大に催されます。

目次

	ページ
I 地域医療の現場より …… 1	
～下関市立豊田中央病院医師 吉兼隆大さんに聞く～	
II 山口の今！ 地域医療の元気トピックス	
◇ 山口県ドクタープール医師第1号が着任しました！ …… 4	
◇ 「山口県地域医療セミナー2009夏・周防大島」が開催されました！ …… 5	
◇ 「平成21年度山口県自治医科大学・夏期研修」が開催されました！ …… 6	
III 県からのお知らせ	
◇ 『やまぐちドクターネット』をご覧ください！ …… 6	
◇ 育児中の女性医師を応援！ 保育相談員を山口県医師会に配置！ …… 7	
◇ 自治医科大学医学部の入学志願者募集！ 入試日程が決まりました。 …… 7	
＊ 本誌の継続発送を希望される方へ 一申込方法など一 …… 7	

I 地域医療の現場より

下関市立豊田中央病院 医師 吉兼 隆大さん

今回は、下関市立豊田中央病院医師として、前向きに地域医療に取り組んでおられる吉兼 隆大さんにスポットを当てます。

インタビューを通して、自らが活躍される地域の医療事情や医師としてのモチベーションなどもお聞きしました。

プロフィール

よしかね たかひろ
吉兼 隆大 (36) 山口市出身

自治医科大学卒(平成11年3月)後、現・山口県立総合医療センター(旧・山口県立中央病院)勤務をはじめに、萩市大島診療所、下関市立角島診療所、岩国市立錦中央病院でへき地医療に従事。平成20年5月から、現在の下関市立豊田中央病院の医長に着任し、今も地域医療の第一線で活躍中。趣味は音楽鑑賞。



今回のインタビュアー



おかむら ひろし
岡村 宏さん (山口県立総合医療センター地域医療部勤務)

自治医科大学卒(平成元年3月)後、平郡診療所等のへき地医療に従事。平成9年から、山口県へき地医療の後方支援を行う現所属で、へき地診療所の代診や無医地区の巡回診療等に従事する傍ら、救命救急センターで診療。宇部市出身。趣味はジャズ鑑賞。

Interview

【岡村】 私は、近所の開業医の先生の姿に憧れて「町医者」になりたいと感じたのが医師を志すきっかけでしたが、吉兼先生の場合はどうでしたか。

【吉兼】 幼少の頃は、宇宙飛行士と飛行機のパイロットに憧れていました。中学生の頃に、小学校の教師か医師を考えるようになりました。そして、高校生の時に、へき地医療を取りあげたドキュメンタリー番組を観たことがきっかけになり、「地域医療を担う医師」を志すようになりました。

【岡村】 吉兼先生は、平成20年4月をもって自治医科大学の卒後義務勤務は終了されましたが、今も、県内の地域医療に携わられている理由は何ですか。

【吉兼】 自分の目指す医師としての姿が、やはり地域医療にあるからです。細分化・専門化が進んだ日本の医療は、受けられる恩恵も大きい反面、弊害も大きなものとなっています。

豊田中央病院

狭く・深く診療するあまり病気が診ていなかったり、複数の病気を患う患者さんに各診療科の医師が自分の専門分野のみの診療を行うことで、かえって患者さんに不利益が生じるなどの問題も起きています。

もちろん専門医療は必要です。

しかし、幅広く・様々な疾患に対応できる医師、患者さんの疾患を生活環境の中で折り合いを見つけて、柔軟な診療が出来る医師もまた必要だと思います。

自分の目指す、そのような医師に近づくために、地域医療の現場でもっと経験を積み、学びたいと思いました。



豊田中央病院での診療風景

【岡村】 豊田中央病院での診療で感じることはありますか。

【吉兼】 旧豊田町は道路がよく整備され、車で40分も走れば市の高次医療機関に行くことが出来ます。また、御家族が下関市街に居を構えている患者さんが多くおられます。

このように、街との間で、距離的そして心理的にも近いこともあり、自分が勤務した他の地域と比較すると、専門医・大病院への志向の強さを感じます。

一方で、毎週火曜日には旧豊北町にある神玉診療所で勤務しています。

ここは一昨年まで、自治医科大学を卒業した山口県出身の派遣医師が、この地に居住して休日・夜間診療や往診をするなど、地域に密着して診療していたところでした。



神玉診療所

このような背景や街へのアクセスの悪さなどから、旧豊田町に比べて、いわゆる昔ながらの医師－患者(家族)関係が色強く残っていると感じます。

私自身は、このように、それぞれの地域における特性や診療体制が異なることを理解して受け止めて、その場所、その患者さんに最も適した対応をするように心掛けています。

【岡村】 地域での診療に大切な視点ですね。吉兼先生の診療のモットーは何ですか。

【吉兼】 「患者さんのお話をよく聞く」、「患者さんが自分の家族だったらどうするか？」これをいつも、自分に問いかけることです。

【岡村】 診療に取り組む上での心の支えは何ですか。

【吉兼】 第一には、やはり「家族」です。

次に、自分も山口県の地域医療の一端を担っているという「自覚と責任」。

そして最後には、医師として地域医療の道を選んだ「自分に対する意地」でしょうか。

【岡村】 今後の抱負を教えてください。

【吉兼】 この地域も他と同様に高齢化が進み、何らかの疾患を抱えながら生活しておられる独居世帯や老夫婦世帯の方が多く見られます。

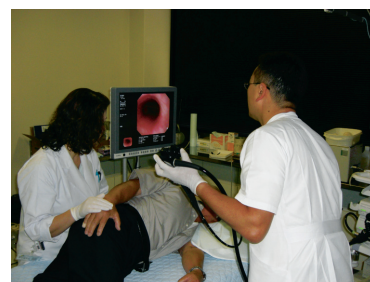
住み慣れた家で少しでも安心して日々を過ごせるように、往診を積極的に行いたいと思っています。また、在宅での終末期医療も出来ればと考えています。

【岡村】 医療に関心のある若い読者にメッセージをお願いします。

【吉兼】 山間部や離島といったいわゆる「へき地(地域)医療」は確かに大変です。

しかし、その経験は医師として、社会人として必ず役立ちます。

街の大病院に勤務する時も、専門医への道を歩む時も「専門診療科を問わず幅広く対応できること」、「疾患だけでなく、患者さんの生活環境も踏まえて対応できること」は必ず求められることです。



内視鏡検査の様子

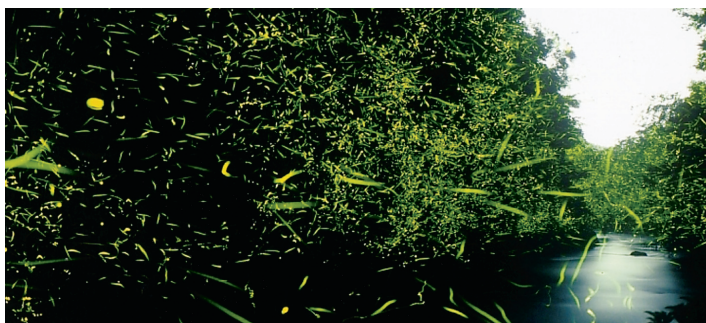
その力を身に付けるには、地域医療に短期間でも携わることが一番だと思います。ぜひ、地域医療の現場に来て下さい。

そして、地域医療を経験する中で「見て・聞いて・感じて」欲しいと思います。

【岡村】 最後に、プライベートではどんな時間を大切にしていますか。

【吉兼】 今年に入って、家庭の事情で山口市から通勤するようになり、豊田町に住んでいた頃と比べて、家を出るのは早く、帰宅が遅くなったこともあり、平日は十分な時間が取れない分、家族と過ごす休日の時間を大切にしています。

子供が6歳・4歳・1歳半と手のかかる時なので、自分一人の時間は殆ど作れませんが、通勤時に車中で聴く好きな音楽が息抜きになっています。



下関市豊田町の6月の風物詩“木屋川のゲンジボタルの乱舞”

〈写真提供〉
下関市豊田総合支所

Ⅱ 山口の今！ ～ 地域医療の元気ピックス ～

◆ 山口県ドクタープール医師“第1号”が着任しました！

県では、自治医科大卒業医師の義務年限明け後のふるさと定着等を図るため、県職員に採用して県内公的医療機関等に派遣する「ドクタープール制度」を設けています。

この度、この制度により、本年4月に同大学の卒後義務年限が明けた医師の原田昌範さん(34)を、5月1日付けで県職員に採用し、萩市の大島診療所に派遣することとなりました。

5月1日の辞令交付式(県庁)で、今村孝子・県健康福祉部長は「県民の安心・安全を守る上で、地域医療の確保と充実はその基本であり、県の最重要課題の一つ。原田さんの豊かな経験と地域医療への変わらぬ熱意に大いに期待しています。」と激励の言葉を贈りました。



原田先生(左)と今村・県健康福祉部長



萩市大島診療所で勤務する原田先生

自治医科大学は、へき地等における医療の確保向上等を図るため、全国都道府県が共同して昭和47年に設立した地域医療を支える医師(総合医)を育成する私立の医科大学です。これまでに山口県出身の62名が卒業され、県内のへき地医療等を支えてられています。

◆ 『山口県地域医療セミナー2009夏・周防大島』が開催されました！

県の寄附講座として、平成20年度に山口大学医学部に設置された地域医療学講座（福田吉治教授、原田唯成助教）では、地域に根差した医療を行う総合的な診療能力を持った医師の養成への取り組みを進めています。

この夏、地域医療の重要性と魅力を医学生に体感してもらい、地域医療マインドを持つ医療人を育てる『山口県地域医療セミナー2009夏・周防大島』が、山口大学医学部医学科の学生8名の頼もしい参加と関係者の協力を得て、8月19日～22日の4日間で開催されました。今年3月に萩市で行われたセミナーに続く第2弾です。参加した医学生は周防大島町の3病院（大島、橘、東和）、介護施設、町内診療所等で地域医療を現場体験するとともに、多くの関係者との交流、瀬戸内海のハワイと呼ばれる周防大島の夏を楽しみました。

福田教授は「周防大島町は高齢化率が大変高く、医師不足も問題となっている地域です。そんな、ある意味どこにでもある、あるいは今後どこにでもありうる“等身大”の地域医療の現場で、多くのことを体感し、これからの地域医療のあり方と自分の未来像を考えたことであろう」と、参加学生の将来への期待を語っておられました。



外来実習、訪問診療・看護同行、介護施設実習、がん検診見学など、包括的な地域医療の現状を学ぶ。

町長さん、3病院の先生方、町職員等と記念撮影。参加者には参加証明書が授与された。



（主な協力施設等）

周防大島町立大島病院・橘病院・東和病院、周防大島町公営企業局、周防大島町健康福祉部健康増進課、周防大島町立介護老人保健施設やすらぎ苑・さざなみ苑、柳井健康福祉センター（柳井環境保健所）、周東総合病院、嶋元医院、安本医院、山中クリニック

（主催）

山口大学医学部地域医療学講座（本講座の活動はホームページを参照ください）

<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tiiki/front.htm>

◆ 「平成21年度山口県自治医科大学・夏期研修」が開催されました！

「ふるさとの地域医療の現場見学を通じて、“地域で必要とされる医師の役割”を考える”ことを趣旨に、県立総合医療センター地域医療部が主催するこの研修は、県内の自治医科大学卒業医師が地元関係者等の協力を得て、主に同大学の本県出身医学生を迎えて毎年開催されます。

今回は、8月21日(金)から22日(土)の2日間、地域医療の将来の主役となる1年生から5年生の同大学医学生9名が、岩国市立美和病院と関係施設等で熱心に診療・介護の現場を見学しました。

今回、5回目の来県参加となった自治医科大学・本県担当の谷口信行教授は、「大学では、へき地医療の現場を見ることがほとんどできない。この研修は彼らにとって、山口への愛着と地域医療への理解を深める非常に貴重な機会」と語られていました。



特別養護老人ホーム美和苑での介護見学



懇親会で自己紹介する本県出身の自治医科大学学生



夏期研修に参加して 自治医科大学5年 たかやま あつし 高山 厚

今回の研修は、岩国市立美和病院での外来診療、心肺蘇生術の実習、更に患者さん宅にお邪魔させていただいた訪問看護の見学など、盛りだくさんの2日間でした。

日頃学ぶ大学病院では、病気の症状や検査結果を教科書と比較し、病気を通して患者さんと関わるということがほとんどです。

しかし、この研修では、地域の人たちの実際の生活の中で、患者さんと患者さんを支える多くの方たちと関わるという貴重な経験ができました。

大学病院のような専門治療や最先端医療はここにはありませんが、医師として医療を必要とする患者さんと対す実践の多くを学ぶことができます。人のいない、何もできないへき地医療という高校時代のイメージとの違いを知り、“幅広く人間全体を診ることを求められる医師像”に、より一層、焦燥と憧れを感じるようになりました。

Ⅲ 県からのお知らせ

◆ 『やまぐちドクターネット』をご覧ください！ 医師確保総合情報のインターネット・サイト

山口県医師確保総合情報のインターネット・サイト「やまぐちドクターネット」では、県の医師確保策をはじめ、地域医療に関するトピックスや県内医療機関の情報を掲載しています。

本誌(バックナンバー含め)も掲載しています。→ <http://www.y-doctor.med.yamaguchi-u.ac.jp/>

また、このサイト上で会員登録をしていただくと、現場で活躍する女性医師や研修医の方々のエッセイ等を紹介するメールマガジン「やまぐちドクターネット通信」を隔月配信します。

→ <http://www.y-doctor.med.yamaguchi-u.ac.jp/publication/mailmaga.html>

◆ 育児中の女性医師を応援！『保育相談員』を山口県医師会に配置！

仕事と育児の両立に不安を抱える女性医師の相談を受け付け、それぞれの事情による育児支援ニーズに沿った保育施設や保育サポーター探しのお手伝いをする「保育相談員」を山口県医師会に配置しています。 ※ 医師会の加入有無は問いません。(山口県の委託事業) 育児に悩んだら、まず、次の連絡先に電話やメールでご相談ください。



090-9502-3715(月～木 9:00～17:00)



hoiku@yamaguchi.med.or.jp

◆ 自治医科大学医学部の入学志願者募集！入試日程が決まりました。

自治医科大学は、へき地等における医療の確保向上及び地域住民の福祉の増進を図るため、全国の都道府県が共同して昭和47年に設立した地域医療を支える医師(総合医)を育成する私立の医科大学です。

JICHI MEDICAL UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE YAMAGUCHI 2018-2019



自治医科大学
医学部

出願資格などの詳細 → 自治医科大学ホームページ上の医学部入試情報

URL : <http://www.jichi.ac.jp/gakujika/jichi.html/boshu/exam/index.html>

<募集人員> 113名 * 栃木県地域枠3名を含む。《山口県から2名ないし3名が選抜予定》

<選抜試験の期日及び試験場>

区分	第1次試験		第2次試験
試験日	平成22年1月25日(月)	学力試験	平成22年2月4日(木)
	平成22年1月26日(火)	面接試験	(小論文・面接試験)
試験場	山口県庁		自治医科大学(栃木県下野市)
合格発表	平成22年1月29日(金)		平成22年2月19日(金)

<願書受付期間> 平成22年1月4日(月)～1月19日(火) <1月18日(月)消印有効>

<願書提出先(問い合わせ)> 山口県健康福祉部地域医療推進室(担当:伊藤)
〒753-8501 山口県山口市滝町1-1(電話 083-933-2937)

「山口県医療の風便り」の継続発送を希望される方へ 継続発送申込書

山口県健康福祉部地域医療推進室 行 (FAX 083-933-2939)

この申込書に必要事項を記入して、山口県健康福祉部地域医療推進室あてFAX(083-933-2939)してください。 ※ FAXの際は、この面をそのまま送信されて結構です。

* Eメールでの申込は、件名を「山口県医療の風便り継続希望(医師確保)」とし、申込者の氏名・年齢・住所(送付先)・郵便番号を記載して、地域医療推進室のメールアドレスに送信ください。
(E-mail) a151001@pref.yamaguchi.lg.jp

氏名	(歳)
住所(送付先)	(〒 —)

★ 本誌は「やまぐちドクターネット」でも見るができます。

<http://www.y-doctor.med.yamaguchi-u.ac.jp/publication/index.html>